

「三中校長脳卒中で倒れちゃった③」

【置かれたところで精一杯咲く！ 句会に挑戦①】

令和2年12月28日、岸和田リハビリ病院を退院しました。退院前に、三中全校生徒で折ってくれた千羽鶴が届き感激しました。私も生徒と一緒に作った千羽鶴を様々な方に贈ってきましたが、頂いたのは初めてで、こんなに嬉しいのかと驚きました。高価なプレゼントもよいですが、多くの方が、大切な自分の時間を使って作る千羽鶴は、気持ちがよく伝わってくる気がしました。また、あゆみの丘分室の生徒から励ましの手紙も頂き嬉しかったです。千羽鶴と手紙は、校長室に今も飾ってあります。



さて今回と次回は、リハビリ病院に入院中に私が「置かれたところで精一杯咲く」ことを試みた話を書きます。



私は4人部屋で、隣のベッドは、私と同時期に入院した70代半ばの男性Aさんでした。この病院では、患者同士の交流は活発ではありませんが、その方は「朝がきたなあ。今日もリハビリ嫌やなあ」「夜になったなあ。朝まで長い嫌やなあ」と話しかけてくれました。日を追うごとにAさんの言語能力や記憶力が低下していくのを日常の出来事と感じました。無理もないのです。リハビリ病院の言語環境は、患者を落ち着かせるなどの意図があるのかもしれませんが、非常に乏しいものでした。廊下には、絵は何枚か飾られていますが、文字はいくつか病院からのお知らせが貼ってあるだけ。病室には何もありません。本や雑誌を読む気があれば、売店に少しは置いてあるし、家族に差し入れてもらえばよいのですが。私自身は、友人から色々届けてもらってました。Aさんは、リハビリ時に理学療法士と、たまに看護師と話しますが、それ以外は一日中つけっぱなしのテレビを眺めているだけです。高齢者がほとんどで、どの方も同じような感じです。

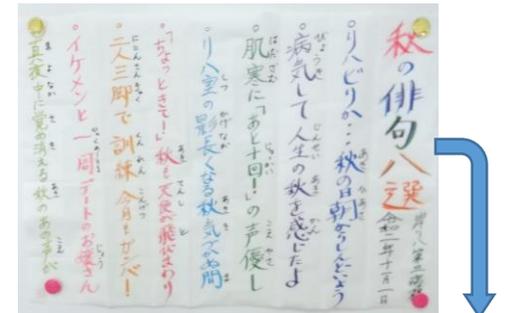
私に何かできることはないかなあと考え、思いついたのは俳句の会でした。食堂に俳句募集の張り紙と俳句を書く紙、投函する箱を置き、

月に1回程度、集まった俳句を模造紙に書いて掲示したり、人気句投票をして、上位の方に手作り賞状を渡すとかすれば、生活を句にすることで深い言語活動になるし、何より楽しいのではないかなあ、と。

看護師のまとめ役の方に相談すると、患者同士の関係ができるともめごとにつながるし、コロナ禍なので集まって会はできないし、プリントをつくるのも難しい、という理由で、却下されました。でも、「荒木さんが作った俳句を掲示するのはいいですよ」と言ってくれて、模造紙ももらったので、早速「秋の俳句八選」と題して掲示物を作り貼ってもらいました。私は国語の教員ですが、俳句を作ることが得意なわけではありません。でも、次に繋がればと考えたのです。

貼った次の日、何人かの看護師さんから、「患者さんが見に来てで」「おなじ気持ちやわ、って言ってる方いたよ」「携帯で写真撮ってる人いたよ」と教えてくれました。しめしめ。

1週間後、ある理学療法士に、「この掲示物、あるしかけがあるねんけど、気づいた？」と振ってみました。「?…! あ、もしかして…」しばらく考えた後正解にたどり着きました。みなさんはお気づきですか？一番上と下の字を左から右に読むと「まいにちリハビリがんばりましょう」と読めるのです。「何度も見たのに全然気づかなかった！」と感動してくれたので、その瞬間に「冬になったら冬の俳句を掲示してもらうつもりやねん。あなたも一句作ってよ」と頼むと、最初は「無理!」「自信ない!」と言われましたが「プレバトみたいなものやで」「貼る前に夏井いつきさんみたいにお直りするから(本当はそんなことできない(笑))」と説得すると書いてくれました。主治医も含め理学療法士、作業療法士、看護師、介護士などたくさんの方が参加してくれて最終20人から27句集まりました。



秋の俳句八選

- リハビリか…秋の日照からしんじよう
- 病氣して人生の秋を感じたよ
- 肌寒に「あと十回!」の声優し
- リハ室の影長くなる秋気づかぬ間
- 「ちよっときて!」秋も天使が飛びまわり
- 二人三脚で訓練今月もガンバ!
- イクメンと一周テートのお嬢さん
- 真夜中に覚め消える秋のあの声